

HPV ワクチン副反応に関する症候学的考察

西脇市・きはら心療クリニック 木原 章雄（医師）

HPV ワクチンは 2013 年 4 月より小学 6 年から高校 1 年相当の女子を対象に定期接種が導入されたが、有害事象の報告が相次ぎ、厚生労働省は 2013 年 6 月より積極的勧奨を中止している。2009 年 12 月のワクチン販売開始から 2018 年 8 月 31 日までの接種者は約 400 万人で、有害事象の報告は 3168 件うち重篤なものが 1821 件であった。2014 年 9 月には少なくとも 186 人が回復していないとの追跡調査結果が報告されているが、現時点での実数については不明である。

HPV ワクチン副反応のうち、重症例の観察から見出せる共通項は以下の 4 領域にわたる症状が重層的かつ多層的に出現し、長期にわたり患者の QOL を著しく損なうという点に要約される。

- ① 運動に関する障害 : 不随意運動、脱力、歩行失調、姿勢保持困難、握力低下、けいれんなど。
- ② 感覚に関する障害 : 激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、腹痛、全身疼痛、視覚障害、光過敏・音過敏・嗅覚過敏、四肢のしびれなど。
- ③ 自律神経・内分泌に関する障害 : 発熱、月経障害、過呼吸、睡眠障害、むずむず脚症候群、立ち眩み、めまい、体温調節困難、手汗などの発汗過多、手足の冷感、吐き気・嘔吐、下痢、便秘、排尿障害など。
- ④ 認知機能や感情・精神機能に関する障害 : 学習障害、記憶障害、見当識障害、相貌認知障害、集中力の低下、気力の低下、著しい倦怠感・疲労感、不安感、悪夢など。

典型例においては、上記の症状が亜急性の経過で重症的・多層的に展開しつつも、最終的には高次脳機能障害に至り、脳血流シンチグラフィなど画像検査にて、神経心理学的所見と一致した変化が認められる。当院にて経験した典型例のうち 1 例を、本人の同意を得たうえ一部匿名化のため改編し、症候学的考察を交えて発表する。